

本件は、大阪府政記者会、大阪市政記者クラブ、吹田日刊記者クラブに同時資料提供を行います。

報道関係各位

生きているミュージアム **NIFREL**

《ニフレル1歳の誕生日記念》「生きものとアートの出会い展」を開催。

11月18日(金)には、アーティストが出席するオープニングセレモニーも実施。

大阪府吹田市「EXPOCITY」の生きているミュージアム「NIFREL（ニフレル）」では、開業1周年を記念し、2016年11月18日（金）から2017年1月23日（月）までの期間、“ニフレルの1歳の誕生日”というコンセプトのもと、5名のアーティストから作品がプレゼントとして届き、ニフレルの誕生日をお祝いする「生きものとアートの出会い展」を開催します。

開催期間中のニフレルは、5名のアーティストの感性と融合した、全く新しい展示空間へと生まれ変わります。



ニフレルは、海遊館初プロデュースによる水族館、動物園、美術館のジャンルを超えた“生きているミュージアム”として昨年11月19日に誕生しました。「感性にふれる」をコンセプトに、まるでアートを楽しむかのように、生きものや自然の魅力をこれまでにない展示手法で直感的に楽しめる工夫をこらしています。今年4月9日には開業約5ヶ月で入館者数100万人を達成し、この11月上旬にも1年を経ずして200万人目のお客様をお迎えする予定です。

そのニフレルの“1歳の誕生日”のお祝いとして、様々なジャンルで活躍する5名のアーティストが、思い思いのかたちで表現した作品を展示する「生きものとアートの出会い展」を開催します。本展示はニフレルの特徴である空間展示（インスタレーション）とアート作品がフィットした、ニフレルならではの空間演出となっています。

ニフレルでは、訪れるたびにいろんな出会いや発見がある“生きているミュージアム”として、今後もジャンルにとらわれない様々な情報発信を続けていく予定です。

【オープニングセレモニーの取材のご案内】

本展示の開催を記念し、11月18日（金）9：30より、オープニングセレモニーを行います。ニフレル館長の小畑洋によるご挨拶のほか、今回の展示に参加するアーティストの中から、水彩画アーティストのOHGUSHI氏、アーティスト・ピュ〜びる氏、切り絵作家の早川鉄兵氏が出席し、お祝いのコメントを頂くほか、OHGUSHI氏がライブペインティングを披露し、アートが創造される様子を楽しんでいただきます。

お問い合わせ：NIFREL（ニフレル） PR・広報担当 田井、西前

TEL:06-6876-2204 FAX:06-6876-2235 MAIL: nifrel.pr@nifrel.jp

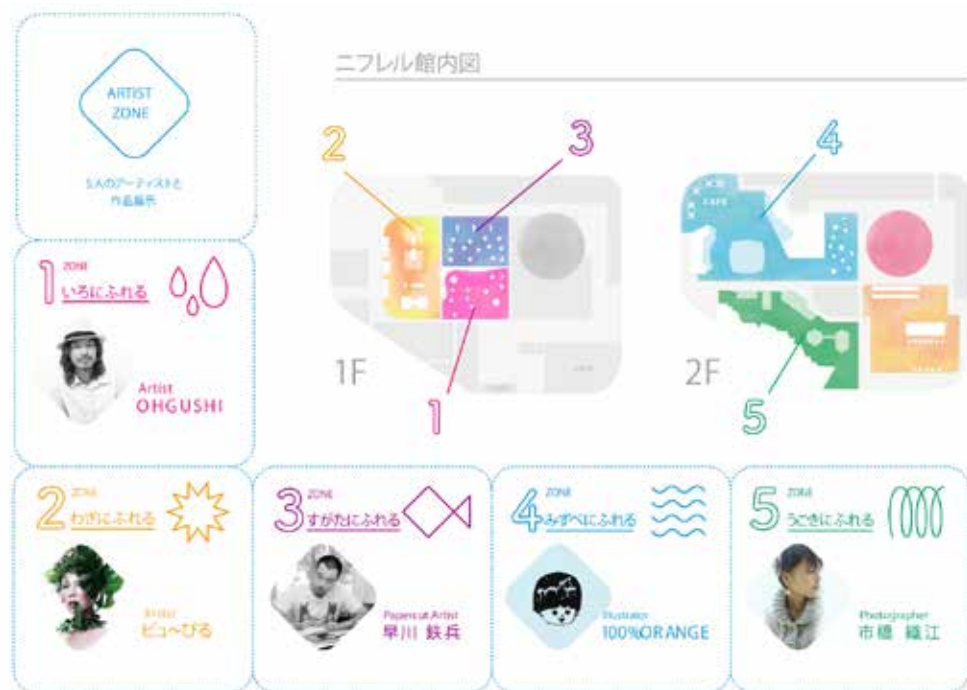


【「生きものとアートの出会い展」概要】

開催期間：2016年11月18日（金）～2017年1月23日（月）

料 金：ニフレ入館料に含む

展示場所：館内の5つのゾーン（いろにふれる、わざにふれる、すがたにふれる、みずべにふれる、うごきにふれる）にて、5名のアーティストによる作品を展示し、全体としてニフレ1歳の誕生日をお祝いします。



《ゾーン1》「いろにふれる」× 水彩画アーティスト・OHGUSHI



ゆるやかにいろが変化する世界「いろにふれる」



OHGUSHI 氏によるアケボノハゼの水彩画

「いろにふれる」は、水のゆらめきを感じる美しく澄みきった水槽で色鮮やかな生きものを展示し、空間全体が色彩変化するインスタレーションとともに、生きものたちの色の多様性を表現したゾーンです。

ここでは、水彩画アーティストの OHGUSHI 氏により描かれたアケボノハゼ、カクレマノミなど4種類の鮮やかな生きものを、全長約23mにも及ぶ巨大なカーテンで展示します。

—OHGUSHI 氏からのコメント—

NIFREL さん、一周年おめでとうございます！僕は小さな魚達の目が覚めるような発色、細部の美しさを水彩技法で表現しました。楽しかったです！

《ゾーン2》「わざにふれる」×アーティスト・ピュ〜ぴる



「わざにふれる」での作品展示（イメージ）



ピュ〜ぴる氏の思い描く展示イメージフォト

水を噴く、砂に隠れる、まわりと同じ色に変化する。生きものたちのオリジナリティあふれる「わざ」を間近で見られる「わざにふれる」ゾーンでは、アーティスト・ピュ〜ぴる氏による手編みのニット製コスチューム5作品などを展示します。生きものたちの特殊な生態である“わざ”と、手技という“わざ”で生み出された生きるために必要な被服が、本質的にはどちらも同じであることを空間全体で表現します。

ピュ〜ぴる氏からのコメント

手編みニット作品を NIFREL 仕様で新たに展示します。生き物の編み出す技と私の編み出す想いが絡み合い、空間に生命の躍動する次元を創り出せたら幸いです。

《ゾーン3》「すがたにふれる」×切り絵作家・早川鉄兵



生きもののすがたが浮かび上がる「すがたにふれる」



早川氏による切り絵作品「ミノカサゴ」

光のドットが無限に続く空間で、まるでショーケースのようなアーティスティックな水槽と美しい造形物が、生きものたちの不思議な形態と調和する「すがたにふれる」。ここでは、切り絵作家の早川鉄兵氏の精緻なデザインとカットワークで生み出されたミノカサゴ、オウムガイなど合計6作品を、実物の生きものとともに水槽内で展示し、生きものたちのすがたの神秘性を表現します。

早川氏からのコメント

NIFREL1周年おめでとうございます。今回の制作を通して、実際の生き物に「ふれる」ことの驚きや感動を再認識させてもらいました。

《ゾーン4》「みずべにふれる」× イラストレーター・100%ORANGE 及川賢治



ホワイトタイガーの「アクア」



愛らしくキャラクター化されたホワイトタイガー

大型動物たちの個性が際立つ「みずべにふれる」ゾーンでは、イラストレーター・100%ORANGE の及川賢治氏によりチャーミングなキャラクターとして描かれたホワイトタイガー、イリエワニ、ミニカバが A0 サイズ（約 120cm× 約 80cm）の大型ポスターでそれぞれ登場します。

なお、ホワイトタイガーについては、同じデザインの塗り絵用紙を希望者全員に無料配布いたします。

— 100%ORANGE 及川氏からのコメント —

こっちからあっちがよく見えるのだから、あっちからもこっちが見えるのでしょうか。
人間はどんな風に見えるのかなぁ。想像力がムクムクと膨らんできます。1周年おめでとうございます。

《ゾーン5》「うごきにふれる」× フォトグラファー・市橋織江



生きものたちの遊び場にお邪魔する「うごきにふれる」



市橋氏による独自の光の世界にたたずむワオキツネザル

ワオキツネザルやカピバラたちが自由にうごきまわる世界を、すぐそばで感じられる「うごきにふれる」ゾーン。生きものたちの自由な姿を、フォトグラファー・市橋織江氏が独自の色彩と光、空気感を感じさせる写真で表現。そこには、まるですぐ目の前にいながらも、目には見えない生きものたちの世界が映し出されているようです。

— 市橋氏からのコメント —

初めて NIFREL を訪れた日、1日で大ファンになりました。そこは今まで体験したことのない世界、その1周年に関われることをとても幸せに思います。

参加アーティストプロフィール

いろにふれる

水彩画アーティスト
OHGUSHI

鮮やかな水彩表現で、色とりどりの生き物や展示空間を表現。

日本古来の書道具を用いた水墨画スタイルの美人画や、独自の水彩技法で、世界各国のグローバルブランド広告を数多く手掛ける。これまでの主な仕事に、三越伊勢丹、McCafe (McDonald's Japan) のキャンペーンビジュアルや、EMILLIO PUCCI、LANCOME でのライブペインティングなど。三菱地所 / 丸ビル開催の大型アートインスタレーション“SAKURA in Marunouchi”では総動員数 4 万人を記録した。海外のアート書籍、国際的な展覧会にも精力的に参加。

わざにふれる

アーティスト
ピュ〜ピル

ユニークな衣装と身体表現で、生き物の特殊な生態である“わざ”を表現。

あらかじめ型紙を取ることなく、裁縫やニットイングを繰り返すことでキャラクターを表現。自身がこれらのコスチュームを身につけ、パフォーマンスを行なう。ニューヨークのカルチャー誌『ペーパー・マガジン』やイタリアン『VOGUE』にも掲載され、海外で注目を集める。横浜トリエンナーレ 2005 をきっかけに本格的に現代美術家として活動開始。2010 年、松永大司監督による 8 年間ピュ〜ピルを撮影したドキュメンタリー映画、『ピュ〜ピル』(Pyuupiru 2001-2008) が海外の映画祭で発表される。

すがたにふれる

切り絵作家
早川 鉄兵

精緻なデザインとカットワークで、神秘的な“すがた”をもつ生き物を表現。

小さいころに、母親と一緒に切り紙遊びをしたことをきっかけに切り絵を始める。滋賀県米原市の山間集落に拠点をおき、日々出逢う自然や動物をテーマに制作活動をしている。精密な切り絵作品にとどまらず、大掛かりなインスタレーションやライトアップを手がけるなど、新しい切り絵表現の可能性を模索している。

みずべにふれる

イラストレーター
100% ORANGE

大型動物を、チャーミングなキャラクターとして表現。

及川賢治と竹内繭子の 2 人組。イラストレーション、絵本、漫画、アニメーションなどを制作している。イラストレーションに「新潮文庫 Yonda?」(新潮社)、よりみちパン!セ挿画(イースト・プレス)、絵本に『ぶうさんのプー』(福音館書店)、『思いつき大百科辞典』(学研)、『ひとりごと絵本』(リトルモア)、漫画に『SUNAO SUNAO』(平凡社)などがある。第 13 回日本絵本賞大賞を受賞。

うできにふれる

フォトグラファー
市橋 織江

館内を自由にうごく動物たちを、空気感を感じさせる独自の表現で撮影。

数々の広告や雑誌、アーティストの写真を手掛ける。フィルムカメラを使用した、独特の淡くて優しい色彩が特徴。2009 年映画「ホノカアボーイ」の映像撮影、TVCM などムービーカメラマンとしても活躍。2012 年にポーラアネックスミュージアム、2014 年には箱根彫刻の森美術館にて大型個展を開催。写真集には「BEAUTIFUL DAYS」(2011 年)、「PARIS」(2011 年)、「Gift」(2009 年)を発表するなど精力的に活動中。

施設概要



- 名 称 NIFREL(ニフレル)(館長:小畑 洋)
- 運 営 会 社 株式会社海遊館(大阪市港区 代表取締役:三輪 年)
- 所 在 地 吹田市千里万博公園2-1 EXPOCITY内ニフレル
- 営 業 時 間 10:00~20:00 最終入館は19:00 ※季節により異なります。
- 休 館 日 年中無休 ※年に1回設備点検のため臨時休館日があります。
- 施 設 内 容
- ・7つのゾーン【いろにふれる、わざにふれる、すがたにふれる、WONDERMOMENTS、みずべにふれる、うごきにふれる、つながりにふれる(生きもの約150種・約2000点)】
 - ・ピクニックカフェ「イート イート イート」(200㎡・112席)
 - ・スーベニアショップ(NIFREL×NIFREL)
- 入 館 料 金 大人(16歳以上)・高校生1,900円、小・中学生1,000円、幼児(3歳以上)600円
- 交 通 大阪モノレール「万博記念公園駅」徒歩2分
- 駐 車 場 約4,100台(EXPOCITY 全体用駐車場)
- 構 造 規 模 S造(一部SRC造、RC造)3階建
- 建 築 面 積 約3,500㎡(約1,060坪)
- 延 床 面 積 約7,200㎡(約2,180坪)

- ※ ホームページ www.nifrel.jp
- ※ ツイッター(@NIFREL_official) twitter.com/NIFREL_official
- ※ フェイスブック(nifrel.jp) www.facebook.com/nifrel.jp
- ※ インスタグラム(nifrel_official) [instagram.com/NIFREL_OFFICIAL](https://www.instagram.com/NIFREL_OFFICIAL)

